Ehime Medical Center

愛媛医療センターニュース
石鎚 ーいしづちー

2021
第63号
4月1日発行

発行者:愛媛県東温市横河原366 国立病院機構愛媛医療センター　発行責任者:院長 阿部聖裕　https://ehime.hosp.go.jp

久尾エドヒガンザクラ（東温市井内）：東温市指定天然記念物
木の高さ16㍍、目通り3㍍。桜の木では市内一の巨木。「孝子桜」「孝太郎桜」「釣鐘桜」などの別名があるが、由来については定かではない。往時はこの花の咲き具合を見て、その年の豊凶を占ったともいわれている。

岩田猛前院長の退任（3月31日付け）に伴い以下のように人事異動がありました。

院　　長	阿部 聖裕　（呼吸器内科）
副　院　長	久保 義一　（消化器内科）
統括診療部長	舩田 淳一　（循環器内科）

4月1日よりこの陣容にて、これまで同様信頼される医療の提供と、地域に密着した病院を目指して参りたいと存じます。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（関連記事2～4頁）

就任のごあいさつ

院　長　　阿部　聖裕

令和３年４月１日付で岩田猛先生の後任として愛媛医療センター院長を拝命しました阿部聖裕（あべまさひろ）です。私は昭和61年に愛媛大学医学部を卒業し、その後大学院、シカゴ留学、愛媛大学医学部附属病院勤務を経て平成８年４月から当院（当時の国立療養所愛媛病院）に勤務しています。呼吸器内科が専門で、平成23年から副院長として経営や医療安全にも関わってきました。

折に触れこの紙面でも紹介させていただいているとおり、当院は結核、重症心身障害、神経難病などの政策医療に携わるとともに、平成28年から救急医療を開始し、地域医療の貢献に努めてきました。その根底にあるのは当院の理念に謳っているとおり、患者さんが第一であることです。

手前味噌ですが長年当病院に勤務する私自身が感じる当院の良さがいくつかあります。

患者さんからスタッフや先生の対応が柔らかいという声をいただくことがあります。それは、自然に囲まれた当院の立地や療養所時代から受け継がれてきた良さなのかも知れません。また大病院に比べると診療科は少ないですが、専門性の高い知識を持った先生やスタッフがおり、遠くから来院いただくこともあります。病院の規模的に職員同士の関係が近く、コミュニケーションが図りやすいことも仕事のしやすさに繋がっています。今回のコロナ禍では病院内の協力体制は頼もしいものでした。このような良さを失うことなく、これからの時代に求められる医療を提供していきたいと願っています。

今後に関しては、関係医療機関との更なる連携の強化を図りたいと考えています。そのためにも当院の特徴や役割をより明確にし、患者さんからも医療関係者からも求められる存在になりたいと思います。患者さんへ提供すべき医療や求められるサポートが高まる中で、職員の働き方改革もしなければなりません。そのためのシステム作りも急務だと考えています。思うことはいろいろありますがひとつひとつ形にしていければと思っています。どうぞご協力をよろしくお願いします。

就任のごあいさつ

副院長　久保　義一

令和３年４月から阿部先生が院長に就任し後任として副院長に就きました。経歴を申し上げますと、久万高原町出身・60歳・高知医科大学（現高知大学医学部）卒業・愛大三内科入局・平成８年８月国立療養所愛媛病院の時期に消化器内科医長として採用され、国立病院機構愛媛病院、愛媛医療センターへ病院名が変わる間に診療部長そして統括診療部長となりました。８病棟があったり、50年に1回咲く花（竜舌蘭）があった療友会、中央廊下をリヤカーで新聞配達していた時代から５階建ての新病棟、電子カルテなど病院は変化しました。

岩田先生が改革された二次輪番制救急への参加や７対１の看護体制などで院内の状態は様変わりしました。新型コロナウイルスの流行に伴い医療収支は悪化したものの補助金で経常収支は改善しておりますが、当院は経営改善病院からは外されていない状態です。

さてこのような状態で今後の経営改善をどうするかが大きな問題点と思われます。

コロナが終わった後に医療収支を安定させるために今のうちに準備しておく必要があります。

以前からの政策医療として、結核・重心・神経難病・postNICUの診療を継続しつつ二次救急患者や近隣の医療施設からの病診連携による患者確保、そして愛媛大学病院や四国がんセンターとの連携が必要です。

新病棟引っ越しから、二次救急医療参入・オーダリング導入・コロナ対応・電子カルテなど変化が激しく、医師・看護師・検査技師などのコメディカルの疲れがたまっているところとは思いますが、もう少し踏ん張って頑張っていただきたいところです。

しかし急には経営を好転させることは難しく一歩一歩着実に良くするしかありません。スタッフ間の雰囲気は他病院と比べていいと思います。和気あいあいとまではいきませんが仕事場の雰囲気作りを大事にしたいところです。私も微力ですが阿部院長をサポートし病院が発展するよう頑張りますので是非ともご協力いただきますと幸いです。

就任のごあいさつ

統括診療部長　船田　淳一

平成７年４月１日に当院（旧国立療養所愛媛医療センター）へ赴任して早いもので四半世紀が過ぎ、30の声を聞いたばかりであった青年医師は還暦へのカウントダウンに入りました。その間、国立病院機構愛媛病院→現愛媛医療センターと名称の変更や本館病棟の新築移転等がありましたが、正面玄関を入ったレトロな佇まいは当時のままです。私自身も当時のままの佇まいを目指していたのですが現実は厳しいと言わざるを得ません。

私の略歴を振り返ると、30代で多数のカテーテル検査/治療や重症患者さんの診療経験による循環器系臨床医としての技術習得と学位取得の後、40歳前後で経験した英国留学が大きな転機となったように思います。さて留学目的は？と問われると、専門分野の追求や医療人としての視野を広げるなど、響きの良い回答を綴りたいところではありますが…私の渡英目的は臨床医としての“箸休め”的意味合いもありました。ただ英国留学を含めた約２年間の充電期間が帰国後これまでの活力となってきたことは実感しています。最近は心臓リハビリテーションと国立病院機構内での臨床研究がライフワークとなっています。私の関係する臨床研究（英文原著論文等）に関しては当院ホームページにアップしていきますので興味をもっていただける方はご覧ください。

これまで循環器内科という枠内での仕事がほとんどでしたが、これからは統括診療部長として、院内各部署間の調整・医療安全業務・地域連携室を通じた各医療機関との連携等の役割を担うことになります。４月以降のスケジュール調整を考えると甚だ不安ではありますが、新たな充電期間を取得するわけにはいきそうもありませんので、このまま流れに身を任せるしかなさそうです。ポストコロナ時代に適った地域医療への貢献とともに当病院運営の一役を担えるように頑張っていきますので宜しくお願い致します。

新院長就任に寄せて

春暖の候、新年度を迎え新たな門出や出会いに心ときめく頃となりました。

愛媛医療センターの皆様には、平素より大変お世話になり、誠にありがとうございます。東温市民だけでなく愛媛県内の医療に広く貢献されており、感謝に堪えません。特に、昨年からの新型コロナウイルス感染症に対し、積極的に感染予防・治療に御尽力していただきました。現在の非常に落ち着いている状況には、貴院の御活躍が大きく貢献しているものと深謝致します。これからも、外来患者様や貴院退院後患者様の併診など、病診連携を更に強固なものにしていきたいと思います。今後とも何卒宜しく御願い申し上げます。

この度、退職されます岩田猛先生とは、個人的には大学同期であり、色々な面で支えていただいたと感謝しております。医師会の釣り大会では、一人だけ大物を釣り上げるなど腕前を存分に発揮していただきました。ゴルフも上手で堅実です。この何事に対しても真摯な姿勢が、院長の大役を果たしてこられたことに繋がったと推察しております。御苦労様でした。これからも、益々の御活躍を御祈念申し上げます。

さて、阿部聖裕先生。院長御就任、誠におめでとうございます。これまでも、副院長として、また、その他にも多方面で中心となって御活躍いただいています。今後も愛媛医療センター・東温市医師会等々の発展に貢献されることを御期待しております。益々お忙しくなると思いますが、くれぐれもご自愛くださいますようお願い致します。

新体制を迎えられた貴院の益々の御繁栄を御祈念申し上げます。

東温市医師会会長　中野 敬

医心伝心

ワクチンで防げる病気のおはなし

新型コロナウイルスのワクチン接種開始が現実味を帯びてきています。ワクチンというと思い浮かぶのはインフルエンザかもしれませんが、最近では小さなお子さんが、スケジュールが大変…というほど多くのワクチンを接種されているのをご存知でしょうか？ワクチンで防げる病気をVPD(Vaccine Preventable Disease)と呼びます。VPDはかかると治療が難しい・命にかかわる・重い後遺症を残す病気だからこそワクチンが開発されている病気です。

例えば細菌性髄膜炎も、お子さんがワクチンを定期接種しているVPDの一つです。ワクチンが無い時代には１年間で数百人ものお子さんが罹患していました。死亡率1-2%、後遺症10-20%の恐ろしい病気です。私が医師になった頃は自費接種ということもあり一部の方しか接種しておらず、細菌性髄膜炎のお子さんが入院され、実際後遺症が大問題でした。しかしワクチンが定期接種化されて以降、私が細菌性髄膜炎と診断したお子さんはいません。今では年間数人の発症と激減しています。もっと前から定期接種されている麻疹は、私は診たことがありません。しかし今なおワクチンの無い頃にこれらの病気に罹患し、重度の後遺症を残されている方を診察する度に、VPDはワクチンで防げる病気、防がなければならない病気であると感じます。

副作用の無いワクチンは残念ながらありませんが、自然に罹患するよりもリスクが低いことは明らかです（だから認可されます）。ワクチンの効果が目に見えない反面、目に見える副作用の情報に不安になるかもしれませんが、ワクチンによりVPDから守られていることは事実です。

新型コロナウイルスも「あの頃はワクチンが無く大変だったね」といえるときを待つ今日この頃です。

小児科医師　桑原 こずえ

医療安全管理室だより

こんなことしています

愛媛医療センターニュース第60号（2020年７月発行）の「医療安全管理室だより」で医療安全部会について紹介しました。今回は転倒・転落防止グループの活動について紹介します。

入院患者さんに限らず、人がいるところには時間や場所に関係なく転倒の危険性があります。そこでこの度、転倒・転落グループでは病棟以外にも目を向け、検査室やレントゲン室を訪問し、転倒の危険性がないか点検を行いました。

検査室やレントゲン室では車椅子から検査用ベッドに移乗する際は検査技師が介助を行うことが多くあります（移乗とは乗ってきた車椅子などから検査用のベッドなどに移動することをいいます）。点検の結果、検査技師は患者さんを転倒させないように不安を抱えながら移乗を行っていることがわかりました。

そこで移乗のプロである理学療法士による、検査技師、放射線技師を対象とした移乗講習を行いました。理学療法士から移乗時の車椅子の角度や患者さんを支えるポイント等について説明を受け、技師同士で患者役と技師役を交代しながら体験しました。実際に体験した技師からは「コツがわかったのでやりやすい。」「いつもの移乗と比べて楽にできた」等の意見がありました。

検査室においても車椅子への移乗時の転倒やベッドからの転落があってはなりません。今後も患者さんにとっても介助者にとっても安全で安心な移乗方法を実践することで、転倒・転落を防止していきたいと思います。

理学療法士による移乗講習（検査室）

四季燦餐

～食事バランスの巻～

ぽかぽかと暖かい陽気に包まれる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

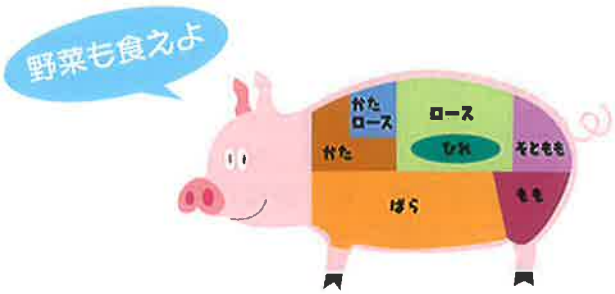
Withコロナが一年以上となった現在、「免疫」について関心をもっておられる方も多いのではないでしょうか。

手指消毒などの接触感染予防、マスク着用での飛沫感染予防、適度な運動、睡眠・休息、保温・保湿に努め、毎日、規則正しい食事を摂ることによって免疫力はアップします。

「免疫力を高めてくれる食材」として、さまざまな食材が取り上げられていますが、ご飯、パン、麺類といった主食、メインのおかずになる魚・肉・卵・豆腐といったたんぱく質を多く含む食品、そしてビタミンやミネラルを多く含む野菜・海藻・きのこを摂取し、バランスのよい食事を心がけることが大切です。

また、腸は、体内で「最大の免疫器官」と言われ、腸の健康を保つことが免疫力アップには欠かせないとも言われています。腸を健康な状態に保つには、腸内細菌のバランスを整った状態に保つことが大切です。プロバイオティクス（発酵食品や乳酸菌やビフィズス菌などの善玉菌を含むヨーグルトや乳酸菌飲料など）を摂取するだけでなく、プレバイオティクス（プロバイオティクスである乳酸菌のエサとなる食物繊維やビフィズス菌など）も合わせて摂取することで、善玉菌が腸内で健やかに育ってくれる為、腸の環境を整えてくれます。ヨーグルトにフルーツを合わせることもより効果的です。

バランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めましょう。



看護学校の頁 ～学び舎から～

ゴールじゃない 第十七回 卒業式 スタートなんだ

私たち３年生は３月３日に卒業の日を迎えることができました。

思い起こせば、３年前不安と期待を胸に入学し、新しい仲間と出会い、初めて触れる専門用語や看護技術に戸惑う日々の連続だったことを覚えています。

２年次では、学校行事の運営の中心となるとともに臨地実習も本格化し、本当に自分が看護師になれるのだろうかと自問自答を繰り返し、時には決意が揺らぎそうになることもありました。

３年次では領域別看護実習中での新型コロナウイルス感染症の流行。見えない何かに右往左往し、思うようにはいかないことも多々ありました。しかしこの期間でそれぞれが自分と向き合う時間も多く、それとともに自分の目標や課題を明確にすることができました。

この３年間が長いようで短く、私たちにとって色濃くかけがえのない時間でした。医療従事者としての心構え、知識はもちろんのこと、人として自分自身が成長することのできた場所でもあると思います。

私たちがここまで来ることができたのは、学ぶ機会をくださった患者様、看護師長をはじめとする指導者の方々、先生方、励まし合える仲間の存在、どんなときも私たちの味方でいてくれた家族の存在が大きかったです。本当にありがとうございました。

４月からは、看護師として働く者、進学する者など進む道は人それぞれですが、一人ひとりが千紫万紅のごとくそれぞれの場所で咲き誇れるように精進してまいりたいと思います。

卒業生代表　岩本 彩希

ちょっと言い放し

愛媛医療センターニュース編集委員の持ち回りでお届けします。

昨年末から、趣味の一環として色鉛筆画を始めた。教室に通う金も暇も無いので、入門書と、奮発してちょっとお高めの舶来物の色鉛筆を買い揃え、あれこれと描き散らしている。

巷では、大人の塗り絵なるものが流行っているが、他人が描いたものに色を付けても面白くは無かろう。それならいっそ一から自分で描いてやれ。との思いつきだ。

絵を始めて間もなく、生活の中に或る変化が現れた。それまで気にも留めていなかった風景や事物をじっくりと観察するようになったことだ。

この木はこんな風に枝を伸ばしているんだ。とか、葉っぱはこんな風についているんだ。とか、この建物は、こっちから光が当たると、こんな色合いになるんだ…等々。自分を取り巻く環境はこれまでと何も変わってはいないのに、新たな気付きが加わるだけで風景が違って見える。新鮮な驚きに満ち溢れた日々を過ごしている。そしてこれまで、自分が如何に物を観ていなかったか改めて気づかされ、『観る』ことと『見る』ことの大きな違いに思いを致した次第だ。

ところで、肝心の絵の方はというと、私は元々、印象派、特にモネが好きなのだが、画用紙の上には、犬だか豚だかわからない謎の生物が出現したり、建築基準法を無視したビルを建てたり、新種の植物を生やしたりと、描く絵はことごとくピカソかクレーかモディリアーニか…という作品ばかり。抽象画に手を出した覚えは無いのだが…下手の横好きを地でいくというやつで、始めて早々にそちら方面の才は皆無であることに気づいたが、絵を描くこと自体は好きなようで、いい暇つぶしになっている。

折角始めた六十の手習い、下手なりに楽しんでいけたらと思っている。

樹懶竜

外来診療担当医表

内科外来直通電話 089-990-1834
外科外来直通電話 089-990-1835

診療科	診察室	午前・午後	月	火	水	木	金
循環器内科	6診	午前	船田	船田	関谷	岩田	関谷
		午後		堀江	船田		
	10診	午前					
		午後					
	12診	午前					
		午後					
消化器内科	9診	午前	古田	山内	久保	山内（糖尿病専門）	久保
		午後					
	12診	午前			廣岡	大藏	
		午後					
呼吸器内科	10診	午前	阿部	伊東	佐藤	阿部	伊東
		午後					
	11診	午前		渡邉		仙波	山本
		午後					
脳神経内科	12診	午前	尾原	戸井		尾原	戸井
		午後	大八木				
整形外科	15診	午前	宮本			宮本	担当医（初診のみ）
		午後					
	16診	午前	玉井		玉井		
		午後					
リハビリテーション科	15診	午前		曽我部	曽我部		
		午後					
外科	14診	午前					
		午後					
消化器外科	14診	午前		鈴木	森本	渡部（第３週）	
		午後					
呼吸器外科	14診	午前					湯汲
		午後				佐野（第4週14時30分～）	
小児科（神経外来）	14診	午前					
		午後	菊池		桑原		菊池

専門外来（予約制）		月	火	水	木	金
心臓外科外来	14診					泉谷
ペースメーカー外来	13診				第２・４（午後）	
糖尿病外来	11診					岡本（第４）
フットケア外来	小児面談室				毎週	
スキンケア外来	救外		第１・３（午前）			
ペインクリニック	12診			山内（康）（午前）		
じん肺外来	13診					西村（第１・３午前）
アスベスト外来	14診		午後		午後	
息切れ外来	11診	渡邉（13時30分～）				
SAS外来	11診					渡邉（14時～16時）
頭痛外来	13診				永井（第２・４午前）	
神経難病	13診			橋本		

※外来受付は8時30分から11時までです。内科は13時から16時までです。（紹介状のない初診の受付は15時までです）
ただし、土・日・祝祭日・年末年始（12月29日～1月3日）は休診です。
※SAS（睡眠時無呼吸症候群）

2021年4月1日現在

独立行政法人国立病院機構　愛媛医療センター

〒791-0281 愛媛県東温市横河原366　TEL 089-964-2411　FAX 089-964-0251
ホームページアドレス　https://ehime.hosp.go.jp

※弊紙の基本方針として、掲載写真については原則ご本人様の了解を頂いております。

※弊紙へのご意見ご要望ご感想は、当センター内病院新聞編集委員会（担当：小倉）までお寄せください。